

ロングライドサイクリングイベントの参加者特性分析

徳島大学大学院	学生員	○中嶋悠人
徳島大学大学院	正会員	山中英生
徳島大学	学生員	亀井壤史
徳島県民スポーツ課	非会員	三木康裕
徳島県立総合大学校	非会員	大岩恵子

1. はじめに

スポーツサイクル(以下SC)は、普及しているシティサイクルと比べると、高速・長距離・長時間の走行が可能であり、全身運動にも優れていることから、中距離通勤や健康活動に適している。このため、自転車を活用した健康面・環境面的な都市づくりを行うための戦略の一つとして、SC文化の育成がいくつかの都市で試みられており、そのための一つ的手段としてSCのライドイベントが実施されている。ライドイベントの普及には、景観などの地域資源のPR、地域の自転車ユーザーレベルの引き上げ等を介した活性化への効果の発現に加えて、間接的ではあるが欠かせない視点として、参加者の付帯行動(宿泊、土産購入、観光)が地域に及ぼす効果発現が重要と言える。そこで本研究では、地域活性化という点に着目し、徳島県内で行われた、5つのライドイベント参加者の属性を付帯行動別に分析することで、地域活性化に寄与する参加者の特徴を明らかにすることを目的とした。

2. 調査方法

徳島県内の5つのライドイベント(第23回那賀川流域センチュリーラン羽ノ浦大会、第3回自転車王国とくしまツール・ド・にし阿波2012、「四国の右下」ロードライド2012、第27回徳島吉野川センチュリーラン大会、2012自転車王国とくしまライドin鳴門)の参加者1910名(出走者2636名のうち72.5%を回収)を対象に、参加者属性や参加の要望等のアンケート調査を実施した。

3. 分析結果

ここでは5大会全参加者の分析結果を示す。

(1) 宿泊・土産・観光の関係

図-1は、サンプルを宿泊、土産、観光、の活動有無で分類した結果を示している。宿泊+土産+観光の

3つ全ての人が5.4%(103名)、同様に宿泊+土産6.9%(131名)、宿泊+観光0.5%(10名)、土産+観光6.0%(114名)、土産19.8%(378名)、観光1.2%(22名)、何もしていない55.8%(1066名)となっており、この順に地域への寄与が高いと考えられる。

宿泊・土産・観光の関係

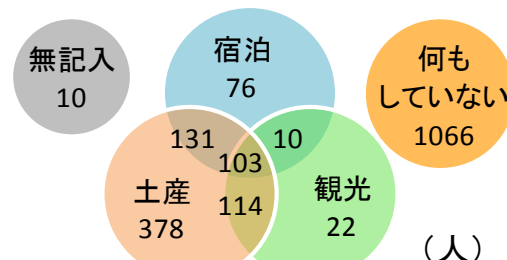


図-1 宿泊・土産・観光活動の有無による分類

(2) 付帯行動の分類別にみたプロフィール

以下に、図-1で示された分類について、少数の宿泊+観光10人、観光のみの22人を除いて、分類別にプロフィールの違いに着目した。

参加者属性 図-2は地域別構成を示している。地域活性化への寄与が高い付帯行動(宿泊+土産+観光)になるにつれて、「徳島県外」の割合が高くなる傾向があるが、宿泊のみでは「徳島県内」の割合が52.6%と高くなっている。県外参加者はイベント以外の土産や観光を魅力としていると言える。図-3は、年齢別の構成率を示している。全ての付帯行動において、「30～50代」が高いが、寄与度の高い宿泊+土産+観光では「60代以上」が高い割合となっている。図-4は性別構成率の比較を示しており、男性が80%と全体で多いが、地域活性化への寄与が高くなるにつれ、女性の割合が高くなっており、宿泊+土産+観光では25%以上を占めている。女性の方が、土産や観光を魅力として付帯行動をすることがわかる。

SCのレベル 図-5はスポーツサイクル経歴を比較

している。宿泊＋土産＋観光では「5年以上」のベテラン者の割合が高くなっている。また、図-6 はサイクリングの1日当たりの走行距離の分類での構成率を比較している。宿泊、宿泊＋土産＋観光では「100km以上」のハイユーザーの割合が高く、宿泊＋土産でもハイユーザーが30km未満のローユーザーより多くなっている。図-7 のイベント年間参加回数の比較では地域活性化の寄与が高くなるにつれ、「6回以上」のリピーターの割合が高くなる傾向があることが分かった。年間1－3回参加という興味層はイベント自体を楽しみとしているのに対して、リピーター層は土産や観光等を同時に行う傾向が高いと言える。

走行形態 一方、図-7 は普段のサイクリング時の走行形態での比較であるが、単独型と同行型については、寄与度分類別での構成率に違いはみられない。

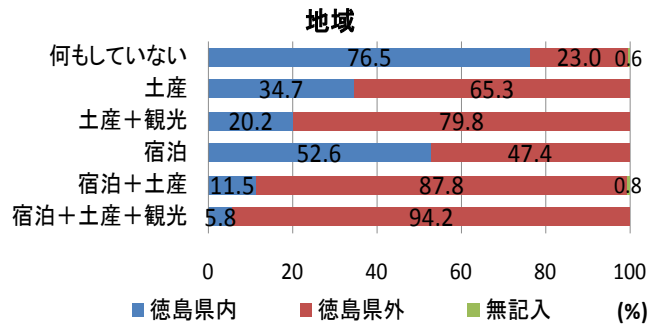


図-2 地域の分布

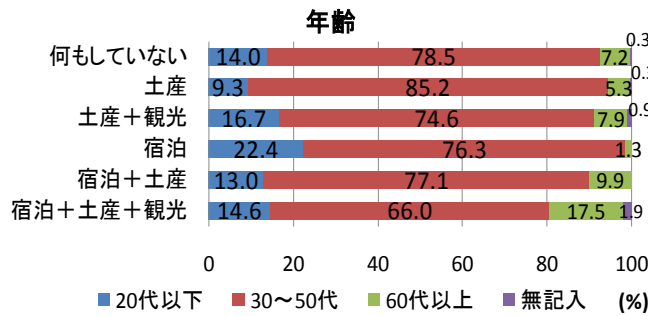


図-3 年齢層の分布

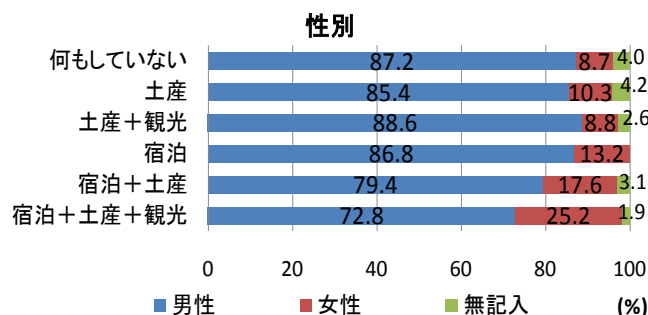


図-4 性別分布

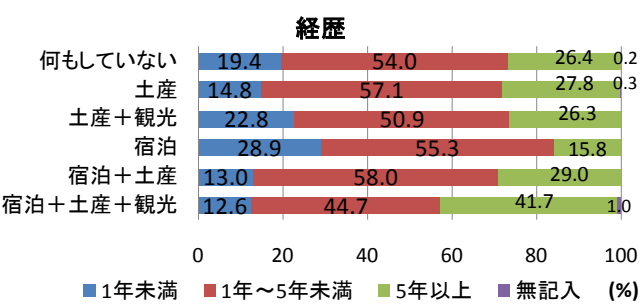


図-5 経歴の分布

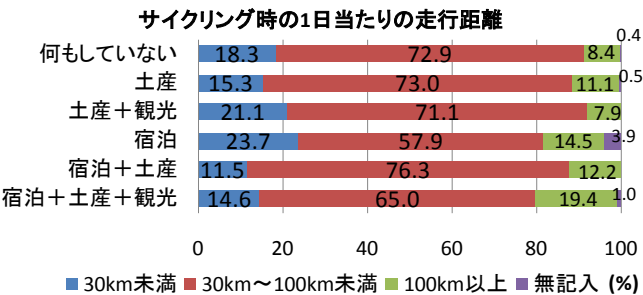


図-6 走行距離の分布

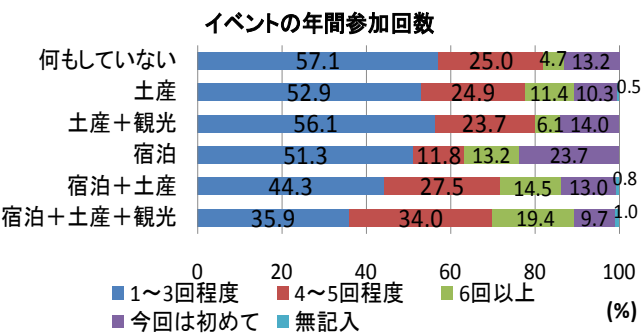


図-7 イベントの年間参加回数の分布

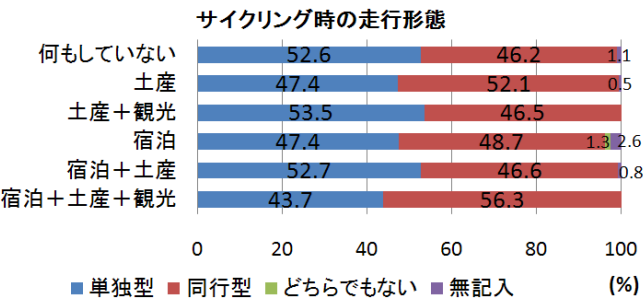


図-8 サイクリング時走行形態の分布

4. まとめ

県外者、女性、リピーター、ハイユーザー、高齢層が、地域活性化への寄与が高くなることが分かった。今後は、これらの属性をもつ参加者のサイクリング情報の入手方法やイベントの魅力、要望等を分析し、SC文化の育成及び地域活性化につながるライドイベントを提案するとともに、県内参加者が地域活性化に寄与するような仕組みを考えることが必要である。